

岩関和子の思い出を語り合うお別れ会

謹啓

若葉の緑が目にも染みる頃となりました

皆様益々御清祥のことと拝察申し上げます

この春 永眠いたしました 弊社創業者 岩関和子の思い出を語り合うお別れ会を ギャラリー桜の木軽井沢にて開催いたします

この時期ですので会期を2日といたしまして いつでもお好きなお時間にお立ち寄りいただけるようにいたしました

会場には 生前支えていただいた作家陣の作品や故人のエピソード そして皆様からのお葉書と上野雄次さんの花を展示 献花台や特設バーコーナーがございます

故人は葬儀不要を希望しておりましたため どうぞ明るいお色の平服で7つの部屋をめぐるいただければと存じます

ご多用中 誠に恐縮ではございますが ご無理のない範囲でご来臨いただけましたら幸甚でございます

かしこ

2022年5月18日

株式会社 ギャラリー桜の木
代表取締役社長 岩関 禎子

Kazukoの話

日時 |

令和4年 7月1日 **金** 午前10時-午後8時
※特設バーオープン 午後2時～

7月2日 **土** 午前10時-午後4時
※特設バーオープン 午後0時～

会場 |

ギャラリー桜の木軽井沢
長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢1151-21

会費 |

不要 / 会場内特設バー(午後より)のみ有料

交通 |

お申し出いただけましたら新幹線到着時刻に合わせ

軽井沢駅まで送迎いたします お気軽にお申し付けください

(当日)ギャラリー桜の木軽井沢 電話=0267(41)2788

(事前予約)ギャラリー桜の木銀座 電話=03(3573)3313

展示内容 |

生前お世話になった作家陣との出会いのエピソード
／特別制作作品・思い出の作品

KAZUKOの写真・動画

KAZUKOのジュエリーエピソード(デザイン画も)

みなさまからお送りいただいた「KAZUKOの話」

お願い |

- ◎御芳志・御供花は お心だけ頂戴し 固くご辞退申し上げます
- ◎喪服ではなく 明るい色の平服でお越してください
- ◎会場内で掲示します ハガキでのメッセージ募集
岩関和子の記憶に残るエピソードや送る言葉

会場装花・献花台プロデュース

Ueno Yuji

上野雄次 花道家

1967年京都府生まれ。1988年偶然出会った勅使河原宏氏の展覧会に衝撃を受け、花道を学び始める。国内の展覧会での作品発表の他、インドネシアのバリ島やタイなどでも創作活動を展開。2005年より「はないけ」のライブ・パフォーマンスを開始。さまざまな分野のアーティストやクリエイター、パフォーマーとのコラボレーションも多数。国内外で、花いけ教室を開催している。2014年「Japanese Ikebana for every season」をアメリカにて出版。同書はフランス語、イタリア語にも翻訳され欧州でも出版されている。2019年「花いけの勘どころ-器と色と光でつくる、季節のいけばな」刊行。国内の芸術祭各所で表現活動を精力的に行う。今回、会場装花、献花台プロデュースを担当。

「Kazukoの話」特設バー

Hamazaki Ayumu

濱崎歩 バー経営／バーテンダー歴30余年

カクテルコンサルタント／茶道宗和流事務局長

1995年に三鷹に開業したバーConnoisseur's Conciergeは四半世紀を越え、新規バーの立ち上げにも携わる。それぞれの店舗から排出したバーテンダーも多く、店舗のコンセプトにあったオリジナルカクテルを提供する。温和で親しみやすい語り口調にファンも多い。茶道にも造詣が深く、茶道宗和流事務局長を務める。

茶道宗和流十八代・宇田川宗光氏創出の南青山の異空間、茶事を流派問わず現代スタイルで楽しむ『即今』の欠かせぬ存在。

今回、午後の特設バーコーナーでオリジナルカクテルを創作。

協力＝株式会社 HIECAL

Iwaseki Kazuko

岩関和子 ギャラリー桜の木・創業者

1944.7.5-2022.3.31

豪雪で知られた新潟県高田市(現上越市)に生まれる。生家は生花店で、父・正太郎は早くからステージパフォーマンスで活躍した古流の華道家、母・トクは商売を発展させた傑人であった。新潟大学教育学部附属(現上越教育大学附属)小・中学校の校風により美術や音楽に親しみつつ育つ。新潟県立高田高校で生涯の友を多く得て、明治大学で文学を専攻、卒論は川端康成。卒業後すぐに結婚、子育てをしつつ、請われて小中学生向けの塾をはじめ人気に。この頃コレクターとして絵画を楽しむ始めるが、離婚を機に全てを捨てゼロから画商の仕事を開始させた。絵画の前での語り口が人を集め、会社を興す以前のフリー時代には百貨店で5分で1枚売れた、という伝説も作っている。1985年に創立したギャラリー桜の木は、家庭にこそ一流の絵画を、をコンセプトに、絵画を丁寧に手渡すこと、文化を創り出す側、享受する側とのハートフルな交流の場づくりに注力してきた。

社名の由来は、故郷高田の桜を思いながら千鳥ヶ淵の桜並木を歩いていた時に、幹から鞠のように咲く小さな花の姿に感銘を受け、女性が一生働ける会社を創ろう、と独立を決意したことから。年々成長する幹に願いを込めて「桜の木」と名付けた。

45歳から大動脈乖離を繰り返し思い、都度余命数日と宣告されつつも幸いに恵まれ、最終日まで仕事と余暇、人との交流を楽しみ、活動的に過ごすことが出来た。医学界でも稀有の症例。